

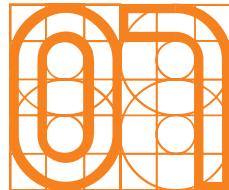


薬品をかけながらエンボスロールを製版する職人



壁紙などを加工するエンボスロール

全世界で使われている携帯電話に、和歌山発の技術が用いられている事実をご存じだろうか。しかも、その技術が地場産業から生み出されたことを。



Printing Technology

地場産業から世界シェア九五%の企業に

ハイテクで躍進しつつ、職人技にもこだわる／高木彫刻株式会社

電子産業に進出

和歌山市の高木彫刻（株）は、創業八十六年。高木玉和社長は

「彫刻」というと、欄間でも彫るんですか、と聞かれます」と笑うが、和歌山の地場産業の染色業で、布地に模様をプリントするのに

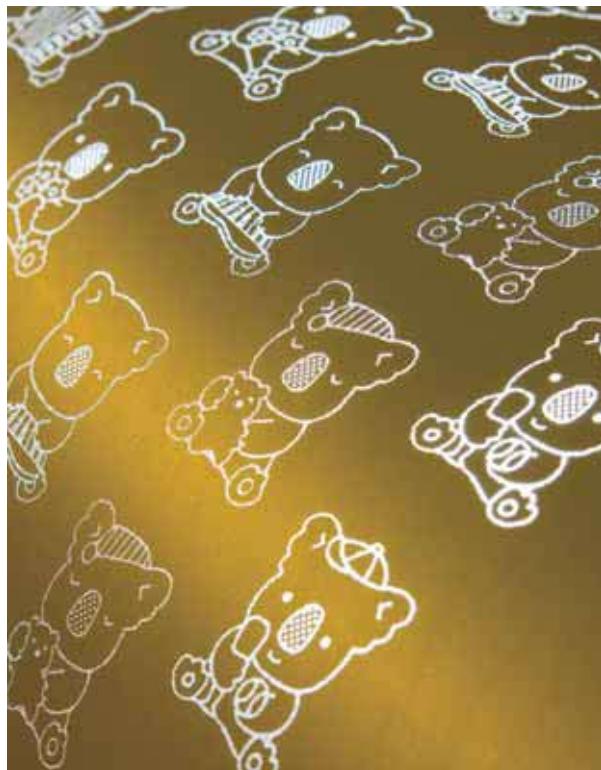
使う「捺染用ロール」を製造してきました。

転機は、東京で開かれた印刷技術展示会への出展。職人の手作業から、最先端の超精密加工へと磨き上げてきた技術が、電子部品に応用できることが分かった。

その結果、携帯電話などのリチウム電池の過電流防止ヒューズ「ポリスイッチ」の製造に参入。今、ポリスイッチの世界シェア九五%、小さなガリバー企業だ。その他にも液晶テレビやスマートテレビに欠かせない部品の製造装置への応用など、ハイテクの仕事が増えている。

職人技も重視

ユニークなところでは、子どもに人気のお菓子「コアラのマーチ」は同社のプリントロールで絵柄を印刷している。染色業向けの売り上げは一割を切ったが、高木社長は「繊維の仕事をやめつもりはありません。これで始めた会社だから」と力を込める。職人芸が必要な分野も残つ



お菓子に印刷するロータリースクリーン

ており、「感性を要求される職人の後継者も育っていく」と語る。今年度、経済産業省の「元気なモノ作り中小企業300社」に選ばれた。高木社長は「うちは技術がすべて。モノづくりを通して、縁の下で社会に貢献していく」と表情を引き締めた。ハイテクと伝統。両方を追求する元気な企業だ。

和歌山の中小企業の底力！

和歌山県から、経済産業省の「元気なモノ作り中小企業300社」に2年連続で6社、計12社も選ばれた。人口や企業数からいえば、2~3社程度が標準なだけに、「和歌山県には実力派のモノづくり企業が多い」と、お墨付きが与えられたといえそうだ。選ばれた企業は、戦前からの和歌山の地場産業・化学関連3社の他、食品や機械装置、電子部品など、多彩な分野にわたっている。各社とも研究開発型企業で、独自技術を基に市場での高シェアを誇る。この12社以外にも、独自技術で高いシェアを維持している企業は少なくない。和歌山のモノづくりは、産業分野でも侮れないのだ。